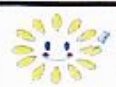


ハロアル新聞は6月に記念すべき「100号」となります♡



せきぐち歯科 NEW ハロアル新聞

受付だより



みなさんこんにちは。大気の冷たさが緩み、差し込む日射しが室内を暖め、暖房器具の使用時間が短くなり、日暮れも伸びて、時折感じる小さな変化に春の兆しを読み取り心が逸ります。桜の開花は春の訪れを告げる代表ですが、私の中ではオオイヌノフグリを道端で見かけると春が来たかと確信します。

せきぐち歯科医院が開院当時小学生の患者さんも、久しぶりに来院すると、もう高校生に、その過程で何度も来院しているはずなのに、最初と今で比較してしまい、小さな体で泣きながらも、頑張っって虫歯の治療に通院していたところが懐かしく思い出され、大きく成長した姿は目を見張ります。

そして3月は卒業の時、学生生活に終わりを告げ社会への第一歩を踏み出そうと、環境が大きく変わる時あるいは進級の時ですね。今まで使用していた文房具を整理したり、新しく買い揃えたりする頃ですね。もし、不要になったノート・えんぴつ・消しゴムなどがありますしたら、当院のフリーピンボランティア活動に寄付していただけないでしょうか。ハブラシ・石けん・タオルはもとより、文房具を届ける活動も行っていますので、宜しくお願い致します。

虫歯や歯槽膿漏は、なつてから治療するのではなく、ならないための予防が大切です。そのために、当院ではハブラシはプロスペックコンパクトスリムをお勧めし、定期的な歯科検診を行っております。一生自分の歯で過ごすため、一緒に頑張りましょう。

(歯科コンシェルジュ 菊地正子)



スラムの奇跡

ハロアルが長年支援を続けているこのエリアで、今年も彼女と会うことができました。  
 私が初めて参加をした時物資を手渡したこのお母さんと子どもたち…今年も会うことができ本当に嬉しかったです。  
 「一生に一度の出会い…」そう

思っって毎年この活動に参加をしています、去年より少し大きくなった子供たちを見ていつまでも健康で頑張っって生きて欲しいと願いました。  
 別れ際、「お母さん、また来年お会いしましょうね。」と笑顔でお約束をしました…。

2015年2月10日



2016年2月10日



新聞周りの口で囲まれた空欄には、フリーピンボランティア活動における協賛者名が記名されます。私たちのこの活動は、みなさんの善意(募金)のみで全ての運営をまがなっているのが現状です。物資輸送費や現地活動費は多額の資金を必要としています。そこで、会社名やサークル、個人名、インシヤルなど、

どんな名称でもかまいません。3000円の協賛をして下さる方を募集しています。尚、協賛金は全額ピンボランティア活動に寄付されます。詳しくは、スタッフまでおたずね下さい。皆さんの協力をよろしくお願い致します。



2016年

ハローアルソン・



フィリピン医療ボランティア



今年の参加人数は過去最多！

総勢121名になりました。



歯科医師	24名	高等学校教員	2名
耳鼻科医師	1名	一般参加	15名
歯科技工士	3名	高校生	43名
歯科衛生士	13名	現地通訳	15名
歯科助手	5名		

合計 121名

## 2016年 活動報告

	医療奉仕活動 1日目 A班	医療奉仕活動 1日目 B班	医療奉仕活動 2日目	総合
* 保存	101歯	44歯	54歯	199歯
抜歯	124歯	101歯	260歯	485歯
予防 その他	235人	211人	530人	976人
患者数	336人	253人	584人	1173人

\* 保存: 詰め物で歯を治す治療



## 2月7日 (活動初日)

## 物資支援活動



balanガイ : 721 エリア

600人に配付

一人につき

歯ブラシ10本・タオル2枚・固形石鹸2個・お米2キロその他:衣類・カップ麺 等

このエリアは昨年も訪れました。私たちが宿泊するホテルからわずか3分程度の場所にあり、約4,000人の住民が生活しています。

マニラの中心部に位置するこのスラムは、農村や漁村などにみられるものとは違い、都会のスラム特有の問題を抱えています。それは収入源として「犯罪」が横行していることです。このエリアでは主に「麻薬」「売春」によって生計を立てなければならない住民が多く、とても危険な地域でもあります

住民たちの主な仕事は路上での物売りや“トライシクル”と呼ばれるバイクタクシーで一日の収入は約300ペソ（日本円で約900円）程度です。

食事は一日1回~2回、病気になるば無料の診療所を受診しますが、その後の治療、お薬は有料な為住民たちは極限まで我慢をします。そして慢性的に栄養不良の子供たちの中には虫歯の菌が全身にまわって死亡してしまう子も少なくありません。



まだ緊張気味...



物資もらって  
うきうき♪



↑トライシクルの乗りバ地は...



どうぞ♡



会場は99%の人で  
ごみ返しています。

↓兄弟で協力合って荷物持ち



“ヒーローズ”



みんなのハイチーズ📷





# 2月8日 (活動2日目) 医療奉仕活動初日

今回は A班 / B班 の二班に分かれそれぞれ別の会場で活動を行いました。

A班

場所：ケソン市 「BARANGAY DAMAYAING LAGI」

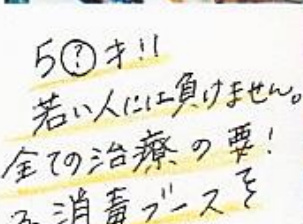
B班

場所：ケソン市 「BARANGAY MANRESA DIST 1」

マニラ市の中心部から車で約40分に位置するケソン市。ここはメトロマニラに次ぐ商業都市でビルや富裕層の住宅街が立ち並ぶ地区です。

今回はA班 / B班 が二つに分かれそれぞれ別の場所での活動となりました。実際の距離にすれば車で10分程度ですが、街の中心に無数のスラムが形成されていますが、今回のエリアは東京ドーム約半分の規模もある非常に大きなスラムとなっています。

ここに約32,000人が住み、主にビル建設や工事現場の仕事に就いています。しかし、一日の収入は約300ペソ（日本円で約900円）程度です。





# 2月9日 (活動3日目) 医療奉仕活動2日目

## 場所：ケソン市 「BARANGAY NORTHBAY BILD NORTH」

前日のエリアからさらに車で20分程度先に行った場所です。

ここは昨年訪れたトンド地区に隣接するエリアで、バスで移動している際右側には数年前に閉鎖されたゴミの埋め立て場「スモーカー・マウンテン」が見えます。青々とした木々に覆われた大きな山の中は実は全て埋められたゴミです。その周りには「スカベンジャー」と呼ばれる、ゴミの中から換金できる物を拾い生計を立てる人たちが沢山住んでいます。

バスが今回の活動場所につき、車を降りると鼻を刺くような異臭に圧倒されます。

このエリアはケソン市内で最も貧困率が高く、約20,000人の人たちが暮らしています。公立の無料の小学校には80%の子供たちが通っています

が残りの2割は親が自分の仕事をさせ、スカベンジャーとしてわずか5歳ぐらいから一人の働き手として家族を支えます。ここでも「麻薬」「売春」の問題は根強く、多くの人たちが職を持ってない為、貧困が貧困を呼ぶ負の連鎖が親から子へと続き、なかなか貧困から抜け出すことができません。

ここでは病気になると無料のヘルス・センターがありますが、その後の治療費、薬代は有料の為、住民は極限まで我慢をします。

しかし、現在は市長の政策で治療費が無料になったそうです。それは現在フィリピンでは国政選挙の最中で政治家たちは住民の票の確保のために「この時期はいつもこんなことをやる」と村のリーダーがぼやいていました。

アシスタント 先生 お願いいたします!



🇯🇵 チーム 栃木 🇯🇵



みんな仲間!!

歯石はとんでも硬いです。



小布くても我慢...



笑顔は世界共通語



↓安堵の笑顔



## 2月10日 (活動最終日) 物資支援活動



場所：「カビテ市 バランガイ・サラマ・マルケティス」

600人に配付

一人につき

歯ブラシ10本・タオル2枚・固形石鹸2個・お米2キロ

このエリアは10数年ハローアルソンが物資の支援を行っている所です。

マニラ湾に面したこのスラムに住む人たちは主に漁業を生業としていました。しかし、政府の開拓事業の為、スラムの人たちが住む漁場が数年前より埋め立てられ、漁獲量も減り更なる貧困を招いています。

ここには約7,000人の人たちが住んでおり毎年

訪れる私たちを心待ちにしてくれています。ここでは物資配布の前に、高校生たちが事前活動の一環として、各地元で様々な人達に呼びかけ、支援して頂いたバスケットボールや手製のおもちゃ、そして約10万円の募金を渡すことができました。この地区で最も貧しい家庭600世帯が最初に選ばれ、上記の物資を高校生たちから直接手渡されます。



黒石英南高校から寄付して頂いた  
ボールや高校生自ら手渡しします!!



院長の笑顔“最高”です!! 😊



♪ 心を込めた歌のプレゼント ♪

栃木から参加した高校生達



もっとたくさん物資を手渡ししたいと思っちゃいます...





# スラム

ゴミを拾いながら生活をする現状は、いつになっても変わることはないのでしょうか…。  
「15歳まで生きること。」ここに写る子供たちの笑顔が一年でも長く続くように…。  
私達に「今出来ること」とはいったい何なのでしょうか…。



笑顔は世界の宝物!!

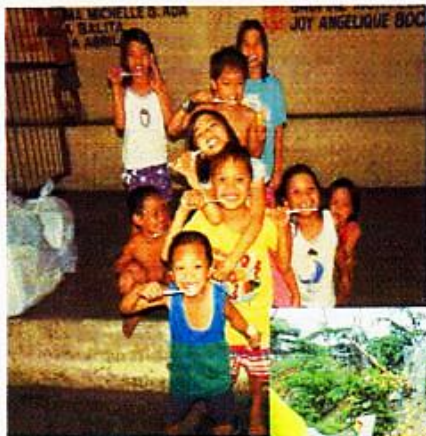
ごみの中からお食料に換えできるものを探しています…。



夜... 街には家もない子供たちがあふれています。



汚泥の中を裸足で歩く子供たち



人生で初めてのハブラシ!!  
皆さんの優しさが  
アタラを救います!!



学校に行く事ができない子供たち…





# 高校生 マニラ・ミーティング

## 今年のテーマ 「 夢 」

このミーティングは毎年一つの議題にそって高校たちに様々な意見を話し合ってもらいます。

これは決して「答え」を見つけるものではありません。

親元を離れ、友達とも、学校とも離れた環境で世界の貧困の現実を肌で感じた高校生たちが考えるものは何か。

日本では当たり前のように、食べることも着るものも、教育も医療も全て満たされた社会で生きている私たち。

その当たり前の現実が、フィリピンのスラムではどれほど尊いものなのか・・・。今日食べることに困窮し、たった歯ブラシ1本、鉛筆1本が買えず、日本では治せる歯も次々と抜歯されてし

まう医療現場を目の当たりにする高校生たち・・・。

私たちの活動理念「4本の柱」にもある、「活動を通じ自らの生活を見直し、真の豊かさを考え」そして「これからの時代を担う高校生たちが真の国際平和と国際貢献を考える」

教育を受けることができる素晴らしさ、医療を受けることができる素晴らしさ、生きることの素晴らしさ、「当たり前」に考えていることが、いかに「素晴らしい」ものなのか・・・。

全てが満たされた社会に生きる若者が全てに満たされない貧困で必死に生きる若者を見たとき、彼らは何を考え、何を思うのでしょうか・・・。



全員が真剣な眼差し...



涙ながらに「夢」を語ります。

「たった4日間」で彼らは何を考えるのでしょうか。



みんな勇気を出して「夢」を語り、くれます。

声を震わせ...涙をこらえ...







# 高校生 マニラ・ミーティング



## 「両親からの手紙」

両親からの手紙が渡されます。これは事前に内緒でご両親にお願いをして、現地で一人一人手渡しました。

突然のことに驚く高校生たち。最初はざわついていた彼らも少しずつ言葉を失くし、会場は静まりかえります。

どれほど親が子を心配しているか。その当たり前のことにこのフィリピンの地で改めて感じたはずです。

日本では上手く伝えられない「親への感謝の気持

ち・・・。」

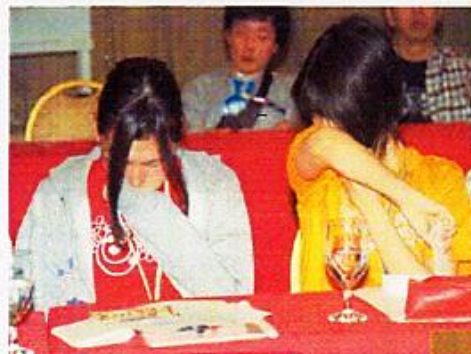
ボランティアを通じ、劣悪な環境でも精一杯生きるスラムの子供たちの笑顔と触れ合い、彼らの心の中の「何か」が変わりました。そして溢れ出す涙・・・。

若さ故の親や学校、社会に対する言いようのない気持ちも、ボランティアを通じ、家族の愛を痛感した時、

彼らの心を覆っていた壁が涙となって流れていきます・・・。

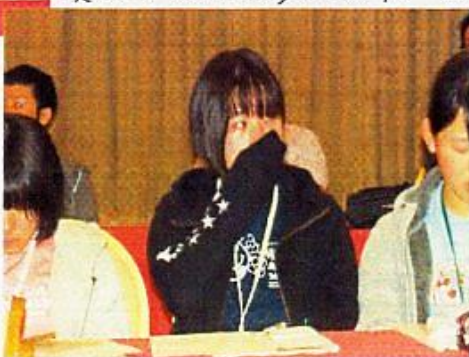


普段聞く事のない、両親からの言葉に思わぬ涙がこぼれます。



突然の両親からの手紙... 会場が静まります...

溢れる涙をこらえられません...



(父からの涙紙か... 母からの愛...  
高校生には、何を思うのでしょうか..)





# 『ありがとうございました!!』 一言では表しきれない感動の4日間



☆ ~ 栃木から参加した高校生より、皆様に感謝の言葉 ~ ☆

昨年に引き続き、このボランティアに参加できた事をとっても嬉しく思っています。  
初めて参加した時とはまた違った見方で物事を考えることができ、新たに気付かされたことがたくさんあります。  
私自身がまたひとつ成長出来たのは、応援してくださる方、支えてくださる方がたくさんいたからです。  
私はこれから更に成長できるように努力し、いつか人から感謝される存在になれるように頑張ります。本当にありがとうございました。

藤井沙弥香



現地での活動は全てが衝撃で、貧困の重さや痛い治療を耐え抜くフィリピンの人たちの強い姿は、日本にいたら知りえないことでした。  
また、現地に行く前の募金活動では集めることの大変さ、日本人の優しさを目の当たりにして助け合いの本当の意味を知りました。  
多くの方に支えられてこの活動に参加できたことを忘れず、次は自分も支える側になれるよう成長していきたいと思います。

三森美沙



私たちは今回1000人以上の患者さんの治療をして、物資を配りましたが、スラムにはもっとたくさん助けを必要としている人がいて、今日を生きるのも精一杯な人がいることを知りました。  
この現状をたくさんの人に理解してもらって協力してもらえるように、努めたいです。  
また、私たち高校生が行けたのは支えてくれた人たちのおかげです。本当にありがとうございました。

根本瞳



私はこのボランティアに参加して現地の現状を知り、現地の方々からたくさん笑顔をいただきました。  
こんな私でも役に立てたことがとても嬉しかったです。このボランティアに参加できてよかったと思っています。  
これからも物資の呼びかけや募金などで、ハローアールソンに貢献していきたいと思っています。

菅生文佳



今回のボランティアは、4日間とゆう短い期間でしたが日本では体験できないようなことをたくさん経験することができました。  
フィリピンの人たちを助けたい、と思いボランティアを行ったのに逆に学ぶことがたくさんありました。  
ボランティアで学んだことをこれからの高校生活や将来に役立てていこうと思います。  
そして、私が体験したことをたくさんの人に伝えたいと思います。

星花奈



高校生の手により  
募金と  
バスケットボールが  
手渡されました。  
¥

出発前に 那須塩原BIG、那須塩原駅前にて、募金や物資を集める活動をしました。ご協力下さった皆様、及び関係者の皆様 本当にありがとうございました!!



# 物資が 不足しています!!

今回、皆様から頂いた全ての物資をフィリピン現地にて高校生の手により配付する事が出来ました。

しかし、現在来年度の物資が不足している状態です。

特に石鹸の在庫が全くない状態です。

タオル・歯ブラシ・ノート・鉛筆も引き続き、ご協力をお願いいたします。



\* 尚、募金総額及び使用明細につきましては、只今集計中です。詳細につきましては、後日ご報告させていただきます。

## せきぐち歯科医院 2015年度物資総数

タオル	3,070枚
バスタオル	32枚
歯ブラシ	12,490本
石鹸	1,400個
ノート	1,000冊
衣類	180着
靴	50足



今年も皆さんのおかげで無事にボランティア活動を行うことができました!!

2016年の壁新聞をご期待下さい。





# 院長手記

「感謝を込めて」

2月7日～10日の4日間、今年のハローアルソン・フィリピン医療ボランティア現地活動が大きな怪我や事故もなく無事終了することができました。

今年も皆さんのお蔭で過去最多の患者数と物資配布を行うことができました。心より感謝申し上げます。

今年は今までに最も多い106名の参加者を賜り、内、高校生が43名、栃木県からは黒磯南高校の生徒6名でしたが、出発前に1名がインフルエンザとなり、5名が現地参加をいたしました。事前研修もしっかりとやっていただけに病気でのご辞退は本当に残念で、本人はとてもし悔しそうでしたが私はあえて「良かった」と伝えました。

現地に行けなかった事は残念でしたが、もし現地で発病していたらもっと大変なことになっていたでしょう。そして、ボランティアには終わりの期限もないのですから今回の悔しい経験を忘れずこれからも様々な所で協力をし、活躍して欲しいと話しました。すると私が帰国した数日後、その生徒が一人で医院にやってきました、「先生、ご迷惑をおかけしました。これ使ってください。」

「進学するので部屋を整理していたら沢山物資が出てきました。」と言って、歯ブラシや文房具を沢山もってきてくれました。私は彼女に「あなたの思いも一緒に現地に持っていったよ。あなたが悔しい思いをしてくれたからみんなもあなたの分まで頑張ろうと心を一つにできました。」

「これが終わりではなく始まりだと思っただけから頑張りなさい。」  
彼女は出発前の研修と同じくらしい元気のいい素敵な笑顔で「ハイ」と答えてくれました。

私がこの活動に参加をして12年が経ちました。当初当院では一年間に数百本の歯ブラシをご協力して頂いたのが、今では年間数万本の歯ブラシを皆様に支援して頂いております。その他、石鹸、タオル、文房具類、募金、毎日のように必ず誰かが届けて下さり、途切れたことがありません。

スタッフも日々の診療の中、様々な準備や資料作りを行い本当に頑張ってくれています。ボランティアを通じ私は様々なことを学びました。

たった1本の歯ブラシさえも買えない子供たちのポロポロのお口の中から、貧困の悲しさといかに日本での治療が恵まれているのか。力及ばず子供たちの歯を抜く度、歯科医師としての無念さとそれでも「サンキュー」と言ってくれる笑顔から言いようのないやるせなさを感じてきました。一袋のお米、数本の歯ブラシ、数枚、数個のタオルや石鹸をもらう為に何時間も炎天下の中私達の到着を待ち、「神様ありがとう」と手を合わせ喜ぶ人々との出会いは、有り余る日本の社会に生きる私にとつて自分自身の生き方を見つめ直すきっかけとなりました。そして、12年間の活動の中で私が最も学んだこと。それは、人種も国境も超え同じ人間の同じ悲しみを知り、手を差し伸べいつもこの活動を支えて下さる皆さんの温かな優しさから、人は決して一人では生

きていけない。人は誰かに支えられ、支え合い生きていく。その支え合う心こそが本当の幸せであり、豊かさなのだということ

人間の本当の幸せとは自分だけではない誰かの幸せを願い、祈り、そして行動に移すこと。毎日のようにみなさんが「先生、少ないですけれど。」「先生、使ってもらえれば。」「と一本、また一本と紡ぎあわせて下さった心が私の背中をどれだけ支え、次の活動へと背中を押してくれているでしょうか。

私のこの活動への原動力、それは皆さんの存在です。この活動に参加をして下さる全ての皆様、家族、スタッフに心からの感謝を申し上げます。

そして今この手記を読み、何かしらの思いを抱いてくださった皆さん。歯ブラシ1本で一人の子供の命を救うことができます。100円玉1枚で4人の子供たちが食事をすることが出来ます。是非、今後とも末永いご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

